

東京湾のスマイカ異変 今期の主役は大型モンゴウ

◀シャクって乗せる釣り方はスマイカと一緒に



▲モンゴウイカの釣り場は大貫～竹岡沖

●スマイカ狙いの脇役としてここ数年注目されてきたモンゴウイカが今期は主役だ



▶抜き上げてはなぐタモ取りが無難

▼モンゴウイカの重量感が楽しい



▶テナヤのオモリは25号。エサは生きたシャコ



▼エンペラの縁がグリーンに光るのがモンゴウイカの特徴



●船中唯一の貴重なスマイカ。ちなみにスマイカはエンペラの縁が金色に光る



▲この重量感一度釣ったら病みつきになる



▲食味もスマイカに遜色ないおいしさ



●曇天に用心



●初期なので水深20メートル以下で乗ることが多かった



●モンゴウイカはトップ6杯だった

魚型スッテは各色用意

テナヤ仕掛けにスッテを付けるかどうかは好みに分かれるところでもあるが、三喜丸の河野船長はスッテ付き仕掛けをすすめる。潮によってはスッテにはかり乗ってこることもあるためだ。

スッテの色により乗りが変わるため、複数種類を用意しておきたい。ピンク、オレンジなど定番のほかグリーン、赤ヘッド、ブルーが基本カラーだ。

モンゴウイカの場合、スマイカよりもスッテによく反応する傾向がある。モンゴウが釣れている時間帯は蛍光色など派手な色のスッテを試してみるのも面白いだろう。



▲モンゴウ狙いならスッテは必需品

東京湾のスマイカが今シーズンにはちょっと様子が変わっている。例年ならそろそろ初期のトップシーズンを迎えるはずだが、今期は高水温の影響がスマイカの生育が遅れているようで乗りは今一つ。代わって主役に躍り出たのが近年注目を集めているモンゴウイカ。釣れば1キロ前後、大型は2キロ級にもなるから乗せたときの衝撃はスマイカ以上の迫力。釣り場は大貫～竹岡沖の水深15～25メートル前後。今後水温が下がって久里浜～下浦沖などの水深40～50メートルでスマイカが釣れ出すまではモンゴウイカ狙いがメインになるだろう。

なお、仕掛けはスマイカ用のテナヤのほかスッテへの反応もいから胴つき仕掛け、いわゆるダウンショットリグも用意しておくといだろう。
(詳細は52ページ参照)



●東京湾奥小柴・三喜丸 河野 秀昭船長